



カルチャートーク Creators@Kamogawa

Creators@Kamogawa は、日本とドイツのクリエイターが、アートやカルチャーに関連する話題について語り合うイベントシリーズです。

第1部：都市空間への小さな介入

都市開発といえば、巨大街区や高層ビルなど、大きなプロジェクトばかりが思い浮かぶかもしれません。けれども、均一化しがちな現代都市に個性をもたらすのは、実は小さな建物や、土地に根差したコミュニティの活動ではないでしょうか。舞台美術や建築に携わるレジデント2名と、ユニークなアートホテル「クマグスク」を設立した京都の美術家が意見を交わします。



アンナ・ヘンツェル (舞台美術家、衣装デザイナー)
Anna Hentschel (Szenografin, Kostümdesignerin)

1982年生まれ。ベルリンで舞台美術を学んだ後、分野横断的な芸術家集団「インヴィジブル・プレイグラウンド」のメンバーとして、場(公的空間)の特性にかなうゲームフォーマットを開発する。

ケレム・イエフダ・ハルブレヒト (建築家)
Kerem Jehuda Halbrecht (Architekt)

1978年生まれ。建築家、コミュニティデベロッパー。リアルタイムで行う建築コンクール『72時間アーバン・アクション (72HUA)』を立ち上げ、欧州や中東の都市空間で住民と共に「介入」を行なう。

ヘンツェルとハルブレヒトは、異なる年齢層や社会的・文化的背景をもつ人々を結びつけるための建築に取り組んでいる。京都滞在中は、遊びや市民参加を促す建築について調査する予定。



矢津 吉隆 (美術家、kumagusuku 代表)
Yoshitaka Yazu (Bildender Künstler)

1980年生まれ。京都市立芸術大学卒業。2006年まで Antenna で活動したのち独立。立体を中心に様々なインスタレーション作品を制作。2013年フランスのブザンソンにAIR滞在。2012年から宿泊型アートのスペース kumagusuku プロジェクトを始動、瀬戸内国際芸術祭2013に参加。2015年1月に KYOTO ART HOSTEL kumagusuku を正式オープン。京都造形芸術大学非常勤講師。kumagusuku.info

© Tomas Svab

第2部：グラフィックノベルは現実に迫れるか

グラフィックノベルとは、大人の鑑賞に堪える水準のコミックのこと。漫画やコミックは、戦争や災害などのハードな主題にどこまで迫れるか。デジタル技術などの進歩に伴うメディアの変化は、表現にどんな影響を与えるのか。広島に被爆少女、禎子のグラフィックノベル化に取り組むレジデントと、時事ネタから哲学的なテーマまでを守備範囲とする人気漫画家が語り合います。

トークの後は、館内のドイツカフェ『カフェ・ミュラー』にて、ドイツビールやおつまみを片手に交流をお楽しみください。交流会では滞在中のドイツの芸術家の作品も、モニターでご覧いただけます。



ヴィヴィアナ・カメル (美術家、作家)
Viviana Kammel (Künstlerin, Autorin)

1977年生まれ。ベルリンで映画学と美術史を学んだ後、映像作品をはじめ、集会的・文化的記憶の現象をテーマに短編小説、脚本、エッセイ、グラフィックノベル等を創作。ベルリンの「フィルムギャラリー451」編集者として、シュリンゲンジーフやノイエンフェルスらの映画DVD編集にも携わる。京都滞在中は、自身の背景をもとに、広島に被爆少女・佐々木禎子について調査し、グラフィックノベルを製作する予定。vivianakammel.wordpress.com



しりあがり 寿 (漫画家)
Kotobuki Shiriagari (Manga-Künstler)

1958年生まれ。多摩美術大学卒業後、パッケージデザインや広告宣伝等を手掛ける。1985年単行本『エレキな春』で漫画家デビュー。パロディーを中心にした新タイプのギャグマンガ家として注目を浴びる。1994年独立後は、幻想的・文学的な作品など次々に発表、新聞の風刺4コママンガから長編ストーリーマンガ、アンダーグラウンドマンガなどで独自の活動を続ける一方、近年では映像、アートなど多方面に創作の幅を広げている。www.saruhage.com



小崎 哲哉 (司会、構成)
Tetsuya Ozaki (Moderator)

1955年東京生まれ、ウェブマガジン『REALKYOTO』発行人兼編集長。写真集『百年の愚行』などを企画編集し、現代アート雑誌『ART iT』を創刊した。京都造形芸術大学大学院学術研究センター客員研究員、同大学舞台芸術研究センター主任研究員、同大学院、愛知県立芸術大学講師。あいちトリエンナーレ2013のパフォーミングアーツ統括プロデューサーを担当した。2014年冬、編著書『続・百年の愚行』を刊行。realkyoto.jp



主催・お問い合わせ

Goethe-Institut Villa Kamogawa

京都市左京区吉田河原町19-3 (川端通り荒神橋上る)

TEL: 075-761-2188 (内線31#)

info@villa-kamogawa.goethe.org

www.goethe.de/villa-kamogawa



〈交通のご案内〉

京阪電車 出町柳駅より 南へ徒歩8分
京阪電車 神宮丸太町駅より 北へ徒歩6分

館内のドイツカフェ『カフェ・ミュラー』も、ドイツビールや軽食などをご用意して、皆様のお越しをお待ちしています。(カフェ・ミュラーでの飲食は各自で負担ください)



**GOETHE
INSTITUT
VILLA KAMOGAWA**